

## 第7回多職種のための投稿論文書き方セミナー

採用される質的研究論文とは  
—質的研究論文の査読基準を踏まえて

萱間 真美 (国立研究開発法人国立国際医療研究センター国立看護大学校)

## I. はじめに

質的研究では、インタビューや自由記載などの質的データを活用して、臨床の現実を伝えることができます。当事者の言葉である生データ（ロウデータ）を例示として用いることで、当事者の語り（ナラティブ）の一部を、そのまま伝えることができるのも特徴の一つです。

質的なデータとしてはインタビューデータが代表的ですが、それをを用いるから質的研究というわけではありません。単語や表現の出現回数を統計的手法を用いて分析する場合があります。あるいは、量的な研究で用いる質問紙を作る際に、当事者へのインタビュー調査を先行して行い、現象をしっかりとらえた質問項目を作ることを目的として行われる場合もあります。

## II. 内容分析の例

図1, 2に示すのは、電話によるコーチングを実施しているコーチによる、「どんな技法が最も効果的で

すか」というインタビューへの回答です。実施している内容はそれぞれ異なりますが、「コーチングの技法」という点では共通した言葉を使っています。この内容分析の結果は、「テレコーチングで最も効果的とコーチが認識しているのは“承認”である」とまとめられます。

## III. 継続的比較分析の例

図3~5に示したのは、グラウンデッドセオリーアプローチの継続的比較分析の例です。子どもに対して不適切な育児行動を行っている母親に、「お子さんと気が合わないと感じることがありますか」と問い、あると答えた場合にそれがどんな状況なのかを聞きました。2つのデータはアンケート調査、1つは治療のためにピアグループに参加している母親たちへのグループインタビューから得られたデータで、それらを比較分析しています。矢印の中はデータのスライス（データから分析テーマに関連する部分のみを切り出したもの）、さらに先行研究から明らかになっている関連概

承認するっていうのはいつも役に立つものなんですけども、病気がかたがたというのは特に、自分がどんどん駄目になっていくとか、ネガティブなことがすごく気に掛かるわけです当然。

ですからその日常の中で、どんな小さなことでも、何かできていることとか、そういうふうな部分について聞く。それで「そういうことができていますね」ということを口に出して承認するっていうのは効果がある。

図1 データ分析：内容分析

そういうふうになっているんですね。そういうふうにして下さって、わたしは非常に嬉しく思いましたとか。そういうアイメッセージを主体にした承認とか、

承認をほとんどの場合、テクニックといえば、使うということですね。

図2 データ分析：内容分析②

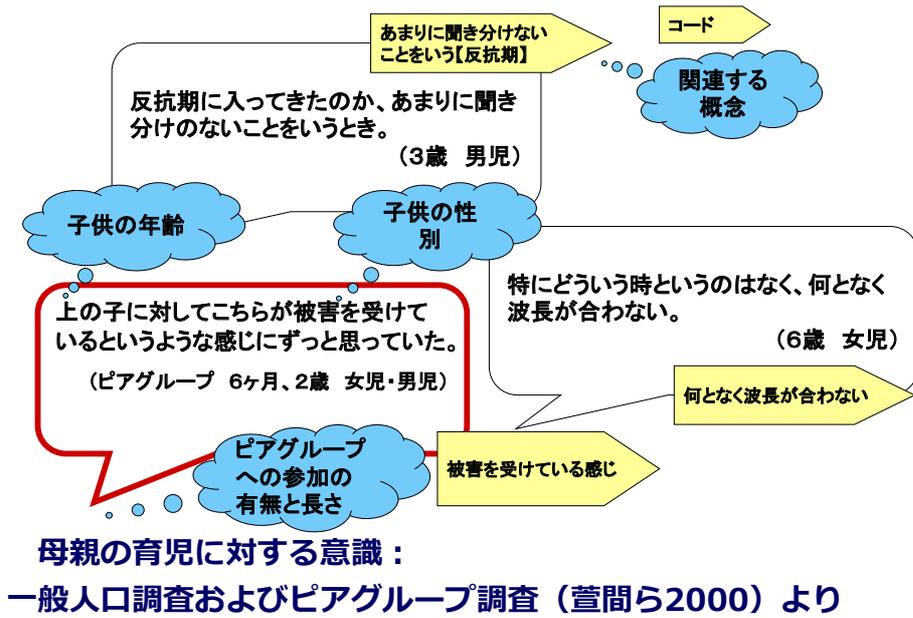


図 3 「この子とは気が合わない」と感じる理由：概念化（コーディング）の例

- “反抗” と “自分の感情”では、責任の主体が異なる。前者の責任は子供にあるとし、後者は母親にあるとされている。
- このような母親のとらえ方の違いには、ピアグループの参加の有無および期間が関わっている可能性がある。
- それとは関係なく、子供の側の要因、年齢、性別、出生順位によってこのような相違が起こっている可能性がある。

- ピアグループの参加が初めてである母親はどう語るか？
- 同じ年齢、性別の子供を持つ母親間で相違はあるか？
- ピアグループと一般人口の母親で同じ訴えがみられるか？

図 4 理論ノート (Theoretical Note) の例

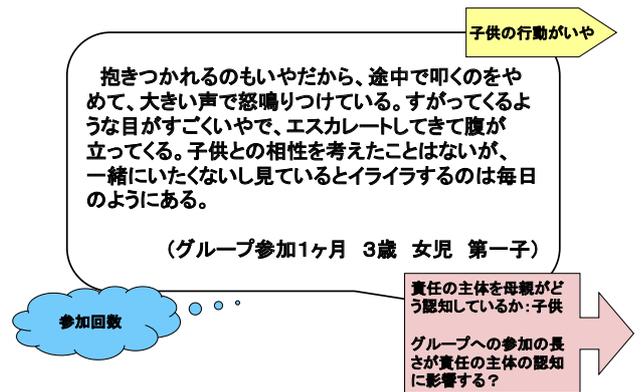


図 5 母親が「この子とは気が合わない」と感じる理由

念も示しました。

図 4 に、これらのデータの分析を通して考えたことをメモとして残した理論メモです。理論というのは、データをこのように解釈できるのではないかという仮説です。その仮説が異なるデータでも支持されるかどうか、継続的に比較します。

図 5 では、図 4 の理論メモが、「ピアグループへの参加が初回の母親は、子どもと気が合わない理由は子供の側に原因があると述べており、グループに参加するプロセスの中で変化が起こっている可能性がある」ことを受けて、ピアグループへの参加が初めてである母親のデータとの比較を行い、ピアグループで母親が自身への洞察を深める前の段階では、ケアを受けていない一般人口の母親と同様に、気が合わないと感じる原因は子どもの側にあると感じていることを示してい

ます。この研究のデータ収集・分析の詳細は書籍<sup>1)</sup>にまとめてありますので、関心のある方にはご活用いただけましたら幸いです。

#### IV. ロウデータを引用した論文作成

インタビューをデータ収集の方法とする質的研究では、当事者たちが用いるリアルな言葉を用いて、現場のリアリティを記述することが可能です。そのため、当事者がおかれている状況を理解するための手掛かりとなる語り、当事者のナラティブを得ることが可能です。当事者が語った生のデータである、ロウデータを論文中にも示すことによって、このような特徴を活かすことが可能です。しかし、そのためにはデータの適切な引用が大切で、読む人が分析を納得でき、他の現

### COVID-19流行時に最前線でケアする看護師の 経験とニーズ

1. 看護師たちは、人類の経験と職業的責任から戦ってきたが、不死身ではなかった。
2. COVID-19患者をケアするには多くの困難（ケアに伴う恐怖、防護具や人員不足、家族の否定的反応）があった。
3. 困難やチャレンジに直面して、看護師が適応するために活用できたのはメディア情報、学習によるスキル獲得、互いの支えあいと組織からのサポートのみであった。
4. よりよい適応のためには、看護師へのカウンセリング、訓練、情報、資源の投資が肝心である。
5. 困難にもかかわらず、看護師はより強くなり、感謝の気持ちや肯定的感情で精神の平和と信頼を保った。

Ding, S., Deng, S., Zhang, Y., Wang, Q., Liu, Z., Huang, J., & Yang, X. (2022). Experiences and needs of front-line nurses during the COVID-19 pandemic: A systematic review and qualitative meta-synthesis. *Front Public Health*, 10, 805631. <https://doi.org/10.3389/fpubh.2022.805631>

図 6 質的研究のメタ統合



図 7 QUARIN-J (看護学の質的研究のための教育資源提供ネットワーク) ポータルサイト

象の理解にも用いることができると感じられれば、論文の有用性は高まります。データから概念を抽出したとして、例となるロウデータを引用して示した場合、データが概念を適切に説明している、適合性が重要です。それを高めるためには、予め研究者間で十分に検討するとともに、査読の機会などで受けた指摘にも適切に対応することが重要です。研究者は発言のすべてを聞いていますが、論文を読む人はほんの一部しかデータを読めません。読者の立場に立って、概念や引用したデータを理解することが可能なように、概念やデータの説明をきちんとすることが大切です。時折、説明なしに概念を羅列していたり、生データのみが示

されている論文を目にすることがありますが、何をどのように伝えたいかという研究者の方向性なしには、読者には伝わらないということに留意しましょう。

#### V. 質的研究のメタ統合

量的データにメタ分析という研究分野があるのと同様に、質的研究にもメタ統合という研究分野があります。文脈を大切にしたり、リアリティのある記述を特徴とする質的研究ですが、例えば COVID-19 パンデミックのような世界的出来事では、それぞれの国の事情や制度を超えて共有可能な知識はとても役立ちました。図 6 は、COVID-19 流行時に最前線でケアする看護師

1. 研究課題が適切である
2. 研究の問いが適切である
3. 十分な文献検討が行われている
4. 研究の重要性が明確である
5. 研究方法の選択理由・適切性が明確である
6. 研究の問いに答えるために適切なデータである
7. 研究参加者の選択基準が適切である
8. 研究が倫理的に行われている
9. 研究方法を十分に理解し、適切に使っている
10. 質のよいデータが収集されている (defence時の提示を含む)

図 8 質的研究方法を用いた学位論文の評価項目 (萱間ら 2009) の評価項目 (1)

11. 結果の厳密性を確保する方法が書かれている
12. 十分な解釈と概念化が行われている (深い分析)
13. 結果がデータで支持されている
14. 新たな知識を生み出している
15. 結果が研究上の問いに対応している
16. 結果が論理的に記述されている
17. 自分の研究結果から導かれる実践への示唆について記述されている
18. 自分の研究の限界について記述されている
19. 看護学に貢献する

図 9 質的研究方法を用いた学位論文審査の評価項目 (萱間ら 2009) (2)

の経験とニーズに焦点をあてた、質的研究のメタ統合論文<sup>2)</sup>の結果の一部です。これらの記述は、わが国の看護師の経験をも表現しているといえます。質的研究では特異性に注目する場合と、共通性に注目した分析の双方があることを紹介しておきたいと思います。

## VI. 質的研究論文の評価基準

筆者らは、平成 18 年度から現在まで、質的研究論文の評価基準作成<sup>3)</sup>や査読のためのネットワーク構築などに取り組んできました。図 7 のようなポータルサイト<sup>4)</sup>を公開していますので、是非ご活用ください。

図 8, 9 に示した質的研究論文の評価基準を始め、研究班のメンバーが経験した査読する側、される側双方の経験なども掲載しています。論文を投稿しようとされる方々にも、査読や編集にあられる方々にもご活用いただけましたら嬉しく存じます。

## VII. おわりに

量的研究と質的研究は、イデオロギー対立の時代を経て、研究目的に応じて有効に組み合わせられ、データに十分に語らせることができる手段として、統合されるようになっていきます。何よりも大切なのは研究目的

であり、リサーチクエスチョンだと思います。よい研究論文が、現象の理解や臨床の状況を改善することにつながることを願って、今後も活動してまいりたいと思います。

## 文 献

- 1) 萱間真美. 質的研究実践ノート—研究プロセスを進める clue とポイント—. 医学書院, 2007: ISBN: 4260004646
- 2) Ding S, Deng S, Zhang Y, et al. Experiences and needs of front-line nurses during the COVID-19 pandemic: a systematic review and qualitative meta-synthesis. *Front Public Health* 2022; 10: 805631. <https://doi.org/10.3389/fpubh.2022.805631> (accessed 2023.10.13)
- 3) 萱間真美. 【質的研究方法を用いた看護学の学位論文評価基準の作成 大学院博士課程における質的研究方法の教育】 質的研究方法を用いた学位論文評価基準作成の概要とプロセス. *看護研究* 2009; 42(5): 309-313.
- 4) “QUARIN-J (看護学の質的研究のための教育資源提供ネットワーク) ポータルサイト”. <https://quarin.jp/> (参照 2023.10.13)